

四旬節第3主日

ヨハネ 2・13-25

2021.3.7

高円寺教会 9:30 ミサ

神言会 アルディアヌス・ファニ神父

皆さん、わたしたちには大切な人がたくさんいると思います。そして、わたしたちは大切な人のために、何かをしてあげたいと思うはずです。例えば、相手の誕生日に祈ったり、贈り物をしたりします。または、その人が人生で大変な問題に直面した時には、心から助けたいと思うでしょう。そのほかにも、大切な人のためにできることはたくさんありますが、これらの行為の共通点は相手を思いやるという「気持ち（愛）」です。愛の誠実さから生まれてきたものです。つまり、わたしたちはその人を心から愛することで、ともに喜び、苦しみ、悲しみ、そして時には、愛する人のためにすべてを犠牲にすることさえ喜びと覚悟することもあります。

今日の福音書では、イエス様の父への愛の表現を示しています。当時、エルサレムの神殿では、宗教を利用して商売をするということが非常によくありました。宗教指導者たちは、神殿での礼拝を手伝うのに忙しくしていましたが、同時に彼らは人々を差別したり、偏見に満ちた態度で人々をあしらっていました。彼らは、本当の意味で神様や人々を心から愛してはいなかったのです。イエス様は、その腐敗した宗教指導者の態度や、神殿での商売に夢中になり神様への神聖な愛をないがしろにする行為に腹を立てました。そして、その結果、イエス様は商人の店を叩き壊して、初任たちを追い出すことによって父への愛を表したのです。

しかし、どうしてイエス様はそんなにも怒ったのでしょうか？ その答えは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」という表現にあります。これは、イエス様が父の家、つまり神殿をとっても愛していたことを意味します。イエス様にとって、神殿は、人々が神様と出会う場所であり、最も神聖な場所だったのです。神殿は、人々が市場で楽しむための場所でもなく、利益のための場所でもありません。神殿は、神様が、愛すべき人々のために行動し、命令し、働く聖地です。当然、この乱暴なイエス様の行動によって、商人や人々は不当な扱いを受け

たと感じたことでしょう。ですが、イエス様は心の底から、神殿は神聖なる聖地であると、命をかけて人々に知ってほしかったのだと思います。

次に興味深いのは、神殿の意味についてです。イエス様は、建物について言及するほかに、自分の体は神殿であるとも述べています。イエス様は「この神殿を壊してみよ。三日で立て直してみせる」。この言葉は、のちにイエス様の復活の後、弟子たちによってのみ理解されました。わたしたちも、このイエス様の言葉によって、教会自体がご自分の体となってわたしたちを守ってくださると考えられると思います。

今日の福音書から得られるメッセージは二つあると思います。まず、教会は神様に会う神聖な場所であるということです。少しの時間でも構いません。神様をもっと身近に感じて、神様の愛を体験してほしいと思います。

次に、わたしたちの体は神様が住む場所であるということに気付いてください。わたしたちの体は洗礼の秘跡のおかげで聖化されました。そして、わたしたちは神様の子どもとして養子にされました。自分の心を清く保ち、健康に気を付けて、規律正しい生活に努めましょう。

わたしたちは今、コロナ感染、ワクチン接種、オリンピックというように、情報に振り回され混乱している日々を過ごしています。こういう時こそ、神様との語らい、そして祈りの時を持ってほしいと思います。